

6
預言者たち
聖徒伝 140

「哀しみの歌を 主に歌え」

アモス書3～6章

イスラエルの罪と裁きと嘆きの歌

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 神の民の重責と裁き 3章
- II. 主の懲らしめと頑なな民 4章
- III. イスラエルへの哀歌 5章
- IV. 迫る破滅 6章
- V. まとめと適用

預言者的な信仰者の使命に
遣わされよう



シナイ山

【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

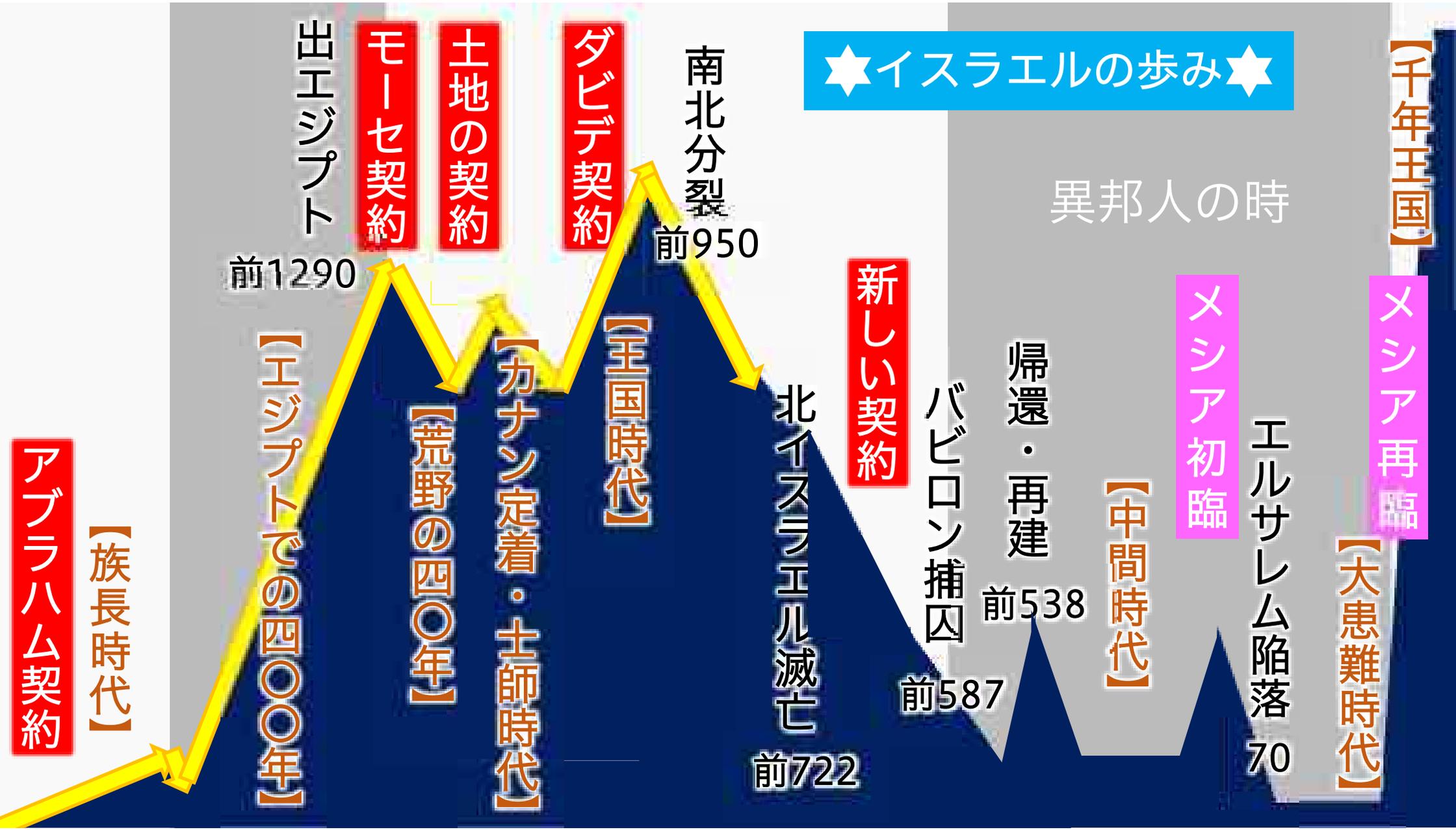
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



アモス書とは？

- **著者** … **アモス** = “重荷を負う者”
- **出身** … テコア (ベツレヘムの南)
交通の防衛の要衝の町。
- **職業** … 羊飼いや農夫 (自営農)
- **時代** … ヤロブアム2世の時代の北王国。
- **場所** … 金の子牛が立てられたベテル。
- **背景** … **アッシリア**の台頭によるアラムの衰退で
南北共に最盛期を迎えていたが…。



バブル最中の警告



迫るアッシリアの脅威

- 古代から存在。BC10～7世紀の新アッシリア後期に世界帝国に。
- BC722には、北王国・イスラエルを滅ぼす。(アッシリア捕囚)
→北王国の滅びは、アモスの時代の数十年後!!

アモス書の構成

① 諸国民への裁き (1～2章)

- ダマスコ(アラム) ガザ(ペリシテ)
- ツロ(フェニキア)
- エドム アンモン モアブ
- ユダ ■ イスラエル

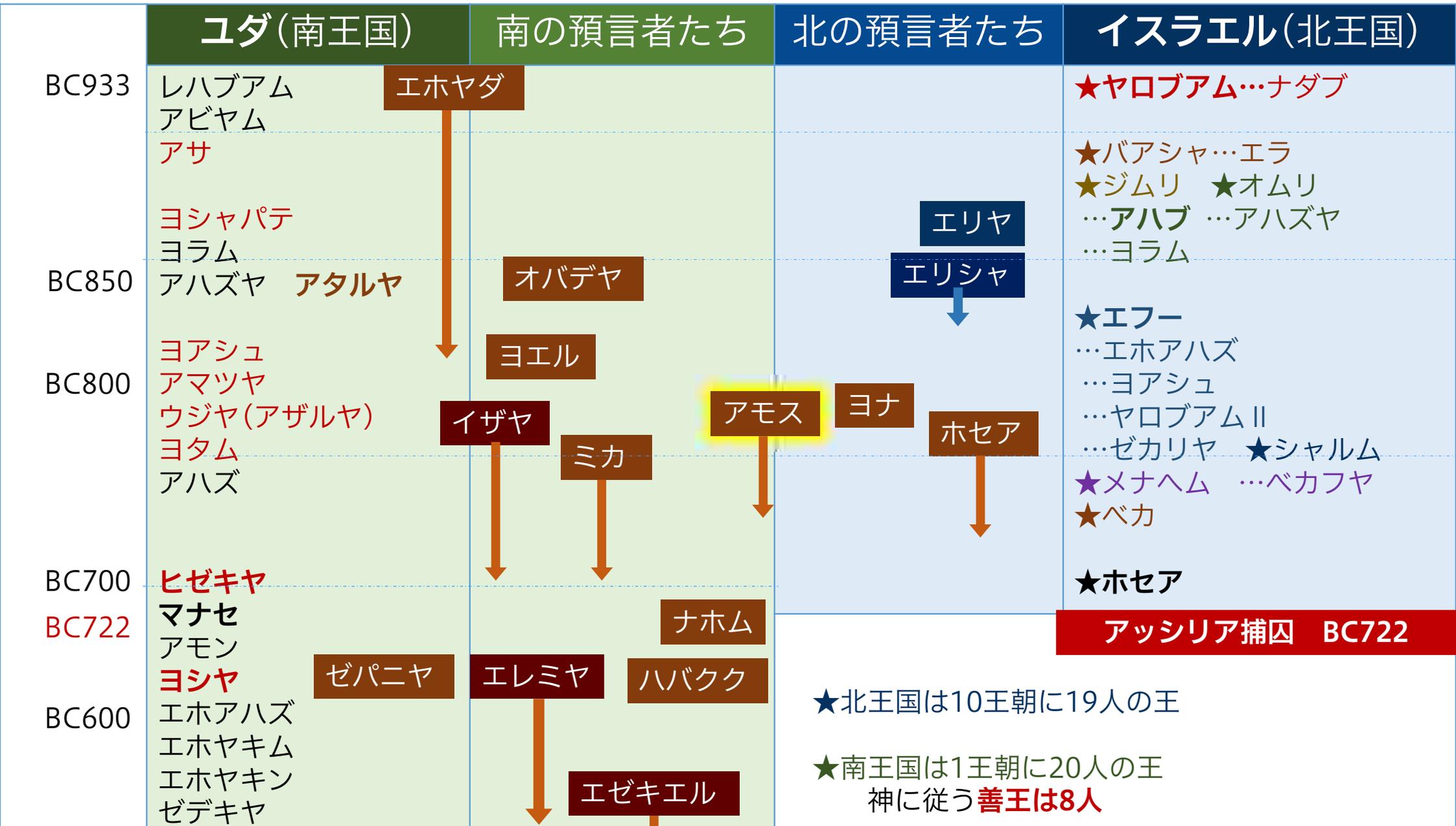
② イスラエルへの裁き (3～6章)

裁きの宣告、哀歌と嘆き

③ 5つの幻 (7～9章)

主の日。イスラエルの回復の希望。





★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

北王国イスラエル

南王国ユダ

エリシャ

ホセア

【エフー王朝】

アモス

エフー

ベカ

20年

エホアハズ

アツシリア捕囚①

28年

ヨアシュ

ヤロブアムⅡ

ゼカリヤ

17年

16年

41年

6ヶ月

シャルル

1ヶ月

メナヘム

10年

南北時代の最盛期

ヨナ

混沌の時代

ヨアシュ♡

40年

アマツヤ♡

29年

ウジヤ♡

ヨエル

52年

ヨタム

イザヤ



Ⅰ. 神の民の重責と裁き

アモス書3章

シナイ山

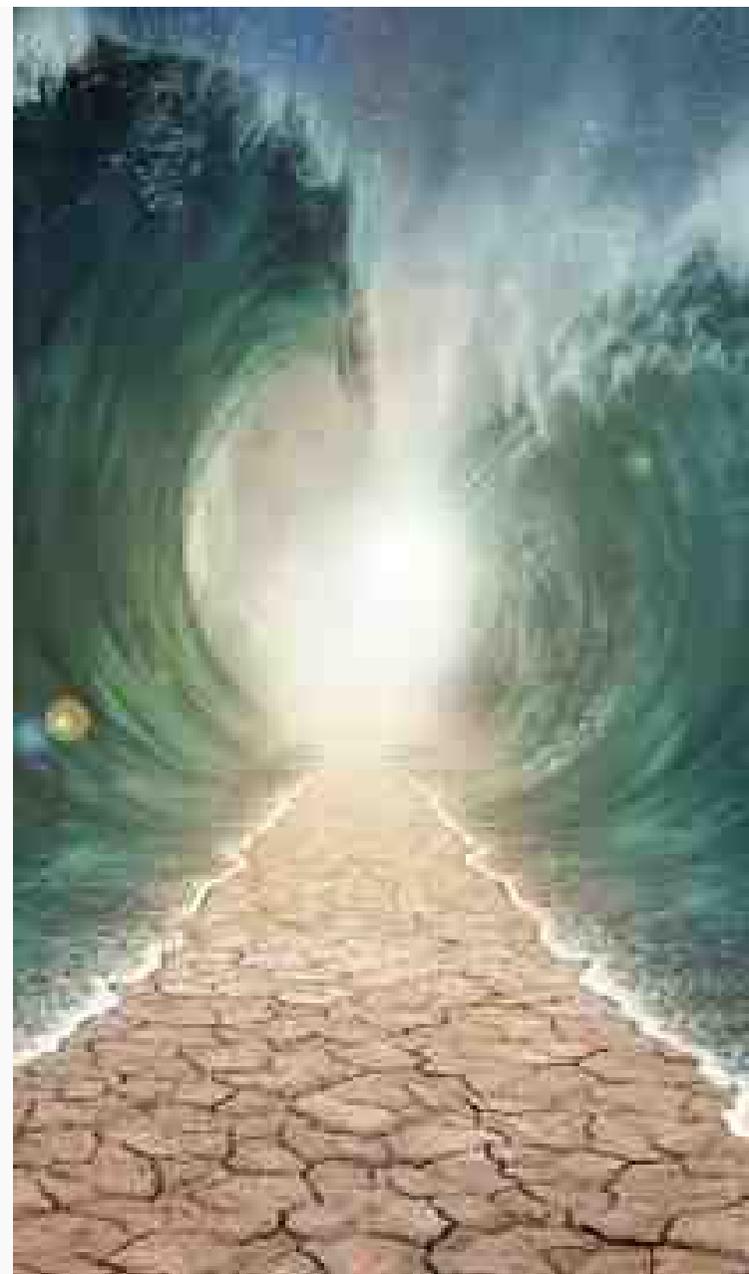
聞け① 神の民の責任 アモス3:1～2

「イスラエルの子らよ、**聞け***。【主】があなただがたについて告げた、このことばを。わたしがエジプトの地から連れ上った、あなたがたすべての部族についてのことばを。

わたしは、地のすべての種族の中から、あなたがただけを**選び出した***。それゆえ、あなたがたのすべての咎のゆえにわたしはあなたがたを罰する。」

*「聞け、このことばを」

*ヤダ …“知った” “わたしは知らしめた”



聞け① 因果関係の原則 アモス3:3~5

約束もしていないのに、二人の者が一緒に歩くだろうか。

獲物もないのに、獅子が森の中で吼えるだろうか。何も捕らえていないのに、若獅子がその洞穴で声をあげるだろうか。

罾も仕掛けられていないのに、鳥が地の鳥網にかかるだろうか。何も捕らえていないのに、鳥網が地面から跳ね上がるだろうか。

- 典型的な対句法が印象づけているのは、
“すべてのことに因果関係がある” そして、
→ “裁きは罪の結果である” ということ。



誰も逃れ得ない
罪の結果の裁き

聞け① 吠える預言者 アモス3:6~8

角笛が町で鳴らされたら*、民は驚かないだろうか。町にわざわざ起こったら、【主】がそれをなされたのではないか。

まことに、【神】である主は、ご自分の計画を、そのしもべである預言者たちに示さずには、何事もなさらない*。獅子が吼える。だれが恐れないでいられよう。【神】である主が語られる。だれが預言しないでいられよう*。

*敵襲を知らせる角笛

*憐れみ深い神は、事前の警告を与えられる。
主が語られたゆえ、預言者は宣言する。



預言は主が
語られた主の言葉

聞け① 偶像礼拝者の証人 アモス3:9～10

「アシュドデ*の宮殿とエジプトの地の宮殿に告げよ。『サマリアの山々の上に集まり、その町の大いなる混乱と、そのただ中の抑圧を見よ。』

彼らは正直に事を行うことを知らない。——

【主】のことば——彼らは自分たちの宮殿に、暴虐と暴行を宝物のように蓄えている。」

*ペリシテの都

■偶像礼拝の民が、裁きの証人とされる皮肉。

→イスラエルの罪の重さを示すもの。



聞け① わずかな生き残り アモス3:11~12

それゆえ、【神】である主はこう言われる。

「敵が、この地を取り囲み、あなたの権威を地に落とす。あなたの宮殿はかすめ奪われる。」

【主】はこう言われる。「羊飼いが獅子の口から二本の足、あるいは耳たぶだけでも取り戻すように、サマリアに住むイスラエルの子らは、寝台の隅やダマスコの長椅子とともに*に救い出される。

*膨大な調度品や宝物の断片しか残らない。

→災いを免れる者は、ほんのわずか。



聞け① 失われる繁栄 アモス3:13～15

聞け。ヤコブの家に証言せよ。

——【神】である主、万軍の神のことば——

まことに、イスラエルの背きのゆえにわたしが彼の上に報いる日に、わたしはベテルの祭壇を罰する。その祭壇の角*は折られ、地に落ちる。わたしは冬の家と夏の家*を打つ。象牙の家*は滅び、大邸宅も消え失せる。

——【主】のことば。」

*権威の象徴 *王の別邸

*アハブ王が建てた(1列22:39)

宗教的権威も、政治的権力も
富も、すべて失われる!!
主の極めて厳しい宣言

ベテルの廃墟





II. 主の懲らしめと頑なな民

アモス書4章

ガリラヤ湖畔・アルベル山頂

聞け② 王妃たちの横暴 アモス4:1

このことばを聞け。サマリアの山にいるバシヤンの雌牛ども*よ。おまえたちは弱い者を虐げ、貧しい者を迫害し、自分の主人に「何か持って来て、飲ませよ」と言っている。

*ガリラヤ湖の東のゴラン高原の一带

→ 辺境から嫁いできた王妃たちが

権威を得て我が儘勝手に振る舞っている

■ 田舎者と蔑んでいる羊飼いや預言者に、
田舎者と言われる屈辱。



ゴラン高原・ヘルモン山

聞け② 虜囚の屈辱 アモス4:2~3

【神】である主は、ご自分の聖にかけて誓われる*。「見よ、その時代がおまえたちに来る。おまえたちは釣り針*にかけて引き上げられる。最後の一人までが、銛で突かれる*。

おまえたちは、城壁の破れ口からそれぞれまっすぐに出て行き、ハルモンに放り出される*。——【主】のことば。

*きよい神が、かけられるものはご自身だけ。

*海の魚 → 屈辱の異邦人扱い。

アッシリアの虜囚への残虐行為が重なる。

*都は破壊。虜囚となって異邦の地へ。



聞け② 偶像への献げ物 アモス4:4~5

ベテルに行って背け。ギルガルに行って、ますます背け。朝ごとにあなたがたのいけにえを献げよ。三日ごとに十分の一を献げるがよい。

感謝のささげ物として、種入りのパン*を焼き、進んで献げるものを布告し、ふれ知らせるがよい。イスラエルの子らよ、あなたがたはそうすることを好んでいる。——【神】である主のことば。

*律法では、聖所の供卓に供えるパン。

■北王国の場合、律法を模しながらも、すべては偶像にささげられた全く異質なもの。



聞け② 懲らしめ① アモス4:6

わたしは、あなたがたのすべての町で、あなたがたの歯を汚さず*、すべての場所で、パンを欠乏させた。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。——【主】のことば——

*食べるものもないので、歯も汚れない。

①北王国全土を飢饉が襲っても、イスラエルは悔い改めなかった。



聞け② 懲らしめ② アモス4:7

わたしはまた、刈り入れまでなお三か月あるのに、あなたがたに雨をとどめた。ある町には雨を降らせ、ほかの町には雨を降らせなかった。ある畑には雨が降ったが、雨の降らなかった畑は乾ききった。

二、三の町は水を飲むために、よろめきながら一つの町に行った。しかし、満ち足りることはなかった。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった——【主】のことば。

②恵みの雨を与えられ、また奪われても、悔い改めにいたらなかった。



聞け② 懲らしめ③ アモス4:9

わたしは立ち枯れと黒穂病で、あなたがたを打った。あなたがたの果樹園とぶどう畑、いちじくの木とオリーブの木が増えても、噛みいなごが食い荒らした。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。——

【主】のことば——

③ 甚だしい、病害やイナゴの害が及んでも、主に立ち返らなかった。



聞け② 懲らしめ④ アモス4:10

わたしは、エジプトにしたように、疫病をあなたがたに送った。剣*であなたがたの若者を殺し、あなたがたの馬を奪い去った。あなたがたの陣営に悪臭を上らせ、あなたがたの鼻をつくようにした。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。——
【主】のことば——

*疫病の背後で神の軍勢が剣を振るっていた。

④疫病でおびただしい犠牲者を出しながら、それでもイスラエルは立ち返らなかった。



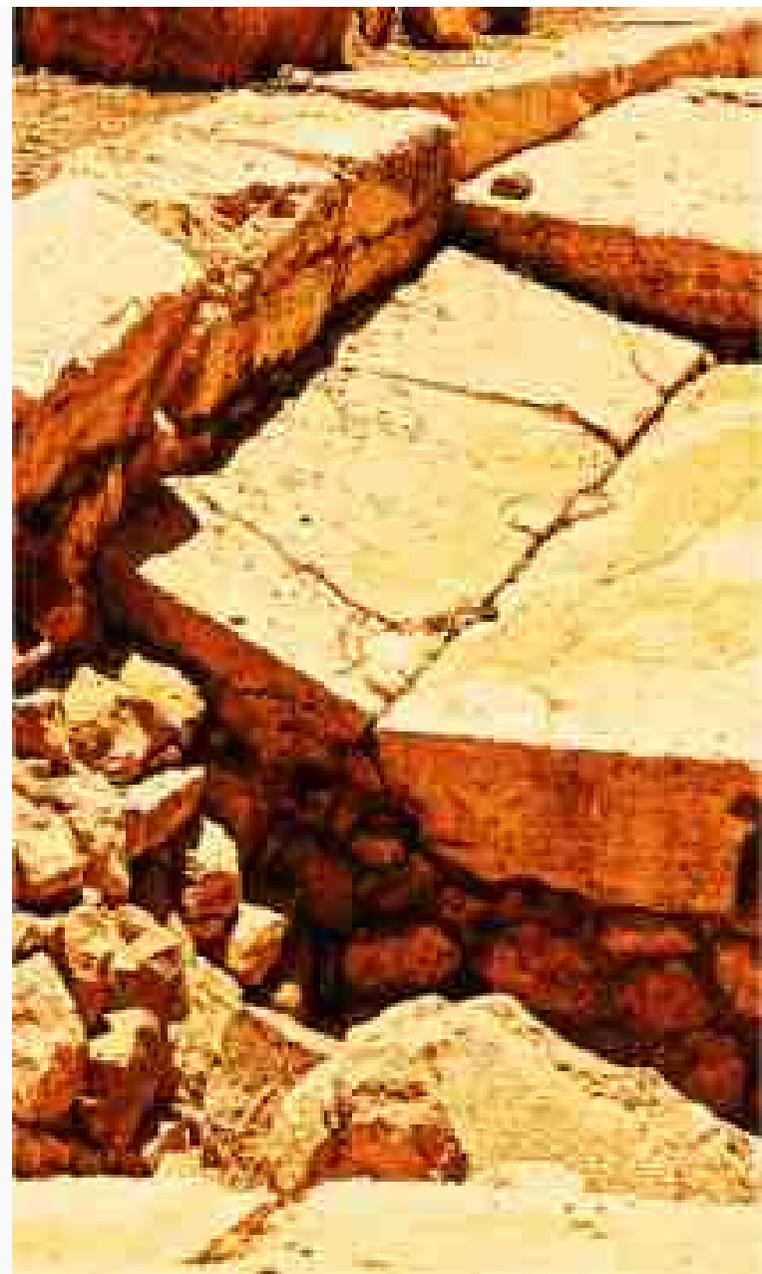
聞け② 懲らしめ⑤ アモス4:11

わたしは、あなたがたをくつがえした*。神がソドムとゴモラをくつがえしたように。あなたがたは、炎の中から取り出された燃えさしのようにになった。それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった。——

【主】のことば。

*天変地異。大地震か？(アモス1:1)

⑤大地震とそれに伴う大火事が襲ったが、それでも悔い改めにはいたらなかった。



聞け② 裁きの備え アモス4:12~13

「それゆえイスラエルよ、わたしはあなたにこのようにする。わたしがあなたにこうするから、イスラエルよ、あなたの神に会う備えをせよ。」

見よ、山々を形造り、風を創造した方。その御思いが何であるかを人間に告げる方。暁と暗闇を造り、地の高き所を歩まれる方。その名は万軍の神、【主】。

■ 罪を重ね、度々の懲らしめにも悔い改めなかったイスラエルが、主の前で覚悟すべき備えとは？

一体誰が
神の裁きに
備えられる？

いよいよ厳しい裁きの本題が告げられていく!!



Ⅲ. イスラエルへの哀歌

アモス書5章

嘆き 哀歌 アモス5:1

イスラエルの家よ、このことばを聞け。
私はあなたがたについて**哀歌***を歌う。

*“キナー” …文学表現。嘆きの歌。

①死者の追悼のために

ダビデがサウルの死に際して
エレミヤがヨシヤの死に際して

②神の裁きを嘆くために

エゼキエル書には、最多の10/19回。
アモス書には、2回(アモス書8:10)



嘆き やもめの悲哀 アモス5:2~3

おとめイスラエルは倒れて、二度と起き上がれない。彼女は自分の地に捨て置かれ*、これを起こす者もない。

まことに、【神】である主はこう言われる。「イスラエルの家の、千人を出征させていた町には百人が残り、百人を出征させていた町には十人が残る。」

*戦争で夫も息子も失ったやもめのイメージ

→当時の女性たちには最悪の悲惨な状況



嘆き

アモス5:4~5

【主】はイスラエルの家にこう言われる。
「わたしを求めて生きよ。

ベテルを求めな。ギルガルに行くな。ベエル・シェバ*に赴くな。ギルガルは必ず捕らえ移され、ベテルは無に帰するからだ。」

*イスラエル、ユダの南端の町

■イスラエルの民が逃れうる最南の町も、偶像礼拝に侵されているということ。

➡イスラエルが偶像礼拝の罪の裁きから逃れ得る道はどこにもない!!



嘆き 創造主の裁き アモス5:6~8

【主】を求めて生きよ。そうでないと、主は火のように、ヨセフの家に激しく下る。火はこれを焼き尽くし、ベテルにはそれを消す者がいなくなる。彼らは、公正を苦よもぎに変え、正義を地に投げ捨てている。

すばるやオリオン座を造り、暗黒を朝に変え、昼を暗くして夜にし、海の水を呼び集めて、それを地の面に注ぐ方。その名は【主】。

■ 天地を造られた神の裁きは、激しく厳しい。



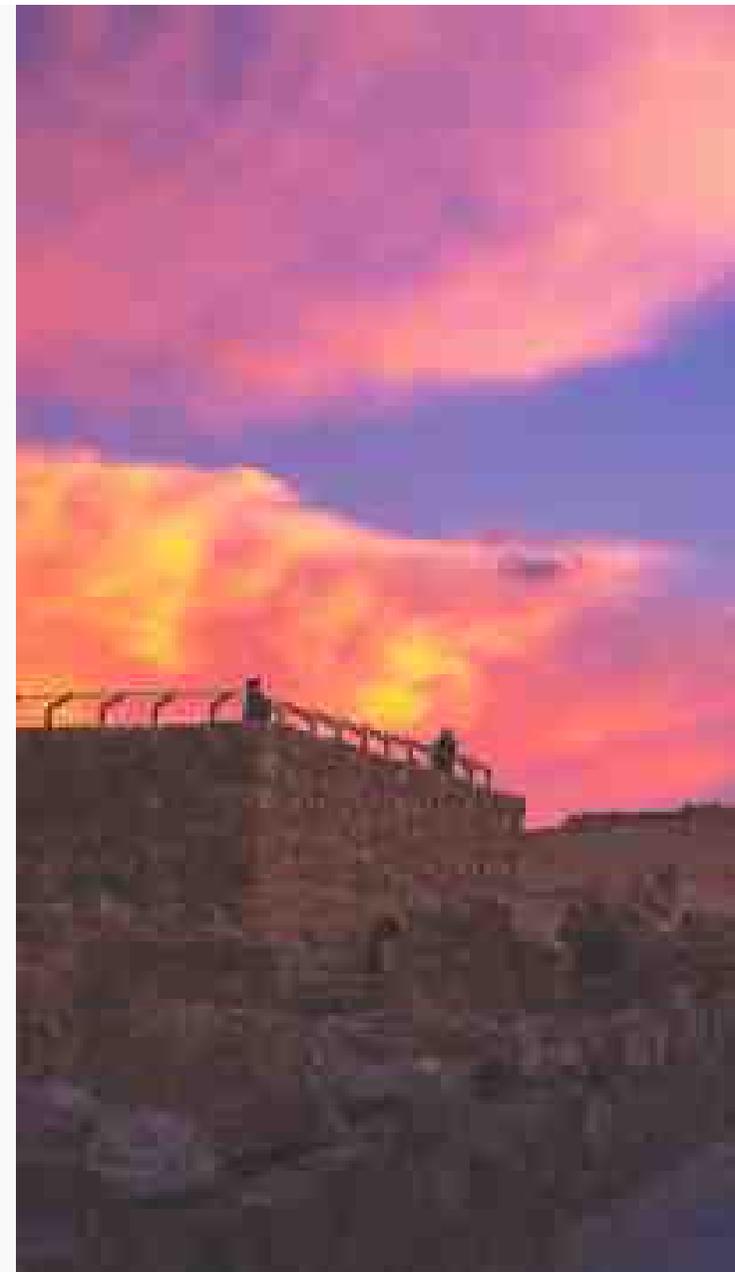
嘆き 曲げられた公正 アモス5:9~11

主は、強い者を踏みにじり、要塞を破壊する。彼らは門*でさばきをする者を憎み、まっすぐに語る者を忌み嫌う。あなたがたは貧しい者を踏みつけ、彼から小作料を取り立てている。それゆえ、切り石の家々*を建てても、あなたがたはその中に住めない。美しいぶどう畑を作っても、そのぶどう酒を飲めない。

*町の門に、行政、司法機関が置かれた。

*堅固で贅沢な富者の家。貧乏人は日干煉瓦

■裁きを曲げた権力者が裁かれる。



嘆き 賢者の沈黙 アモス5:12~13

私は、あなたがたの背きが多く、あなたがたの罪が重いことをよく知っている。正しい者を迫害する者、賄賂を受け取る者。彼らは門で、貧しい者を押し除けている。

それゆえ、このようなときには、賢い者は沈黙を守る。時が悪いからだ。

- 不正と不法が常態化した社会では、やがて正義を訴える者もいなくなる。

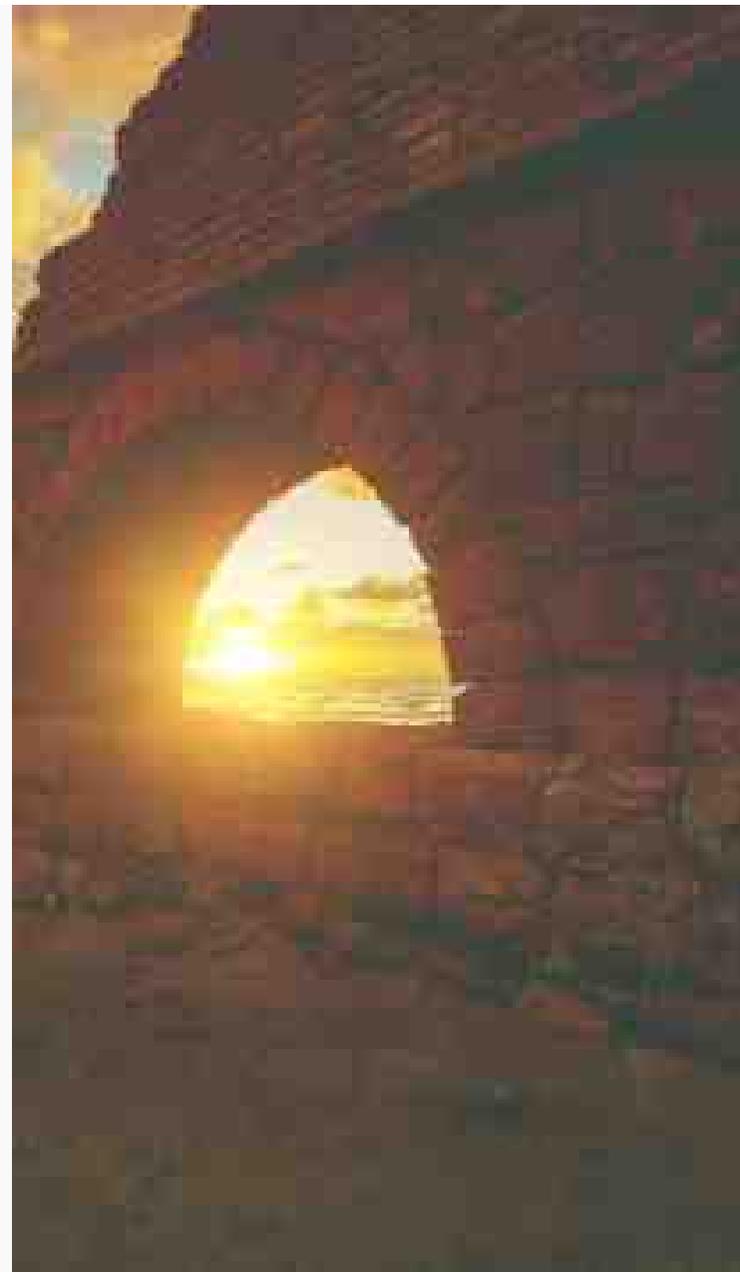


嘆き 信仰者への憐れみ アモス5:14~15

善を求めよ。悪を求めな。そうすれば、あなたがたは生き、あなたがたが言うように、万軍の神、【主】が、ともにいてくださる。

悪を憎み、善を愛し門で正しいさばきを行え。もしかすると、万軍の神、【主】はヨセフの残りの者*をあわれんでくださるかもしれない。

*イスラエルの残された信仰者。レムナント。



嘆き 民の涙 アモス5:16~17

それゆえ、主なる万軍の神、【主】はこう言われる。「すべての広場に嘆きが起こる。すべての通りで、人々は『ああ、ああ』と叫ぶ。農夫を呼んで来て泣かせ、泣き方を心得た者*を呼んで来て嘆かせる。

すべてのぶどう畑に嘆きが起こる。それは、わたしがあなたがたの中を通り過ぎるからだ。——【主】は言われる。」

*泣き女。葬儀の時に雇われた。



涙壺

主の泣かれた教会

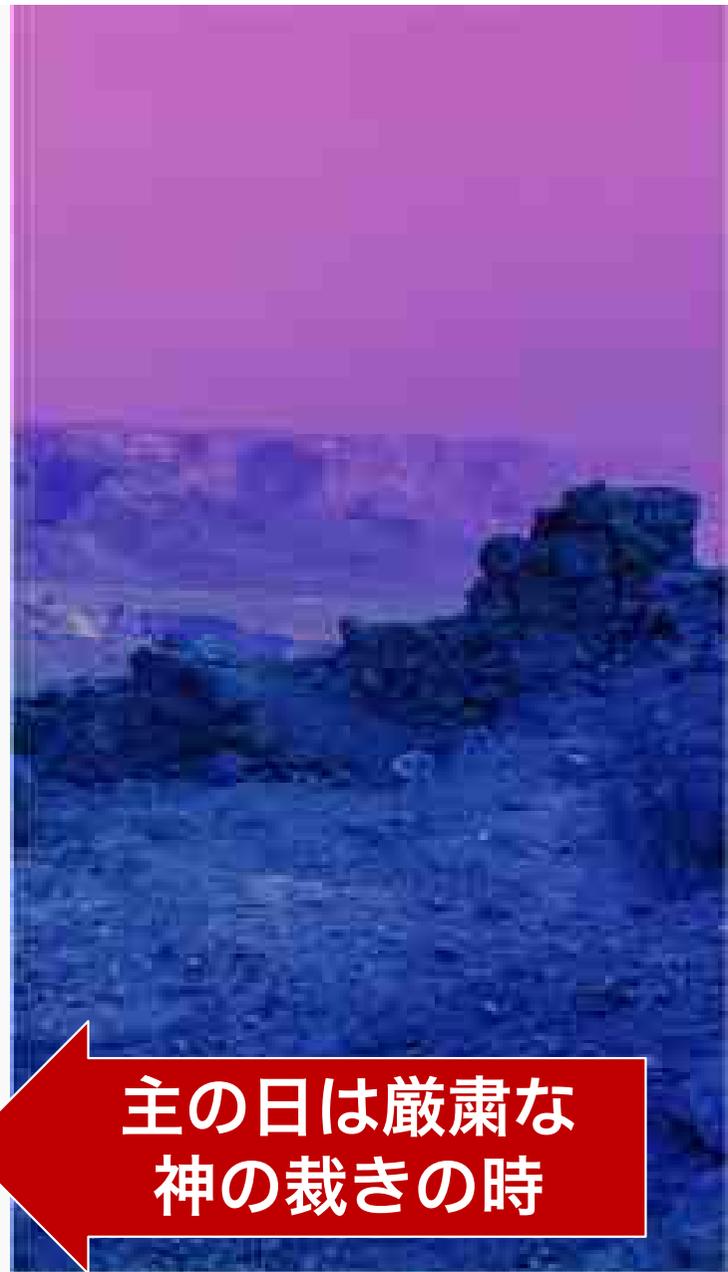
嘆き 主の日 アモス5:18~20

ああ。【主】の日を切に望む者。【主】の日
はあなたがたにとって何になろう。それは闇
であって、光ではない。

人が獅子の前を逃げても、熊が彼に会い、家
の中に入っても、手で壁に寄りかかると、蛇
が彼にかみつくようなものだ。

【主】の日は闇であって、光ではない。暗闇
であって、そこには輝きはない。

- 主の日の後に、イスラエルが回復される。
→ 主の日の裁きを軽んじる傾向があった。



主の日は厳粛な
神の裁きの時

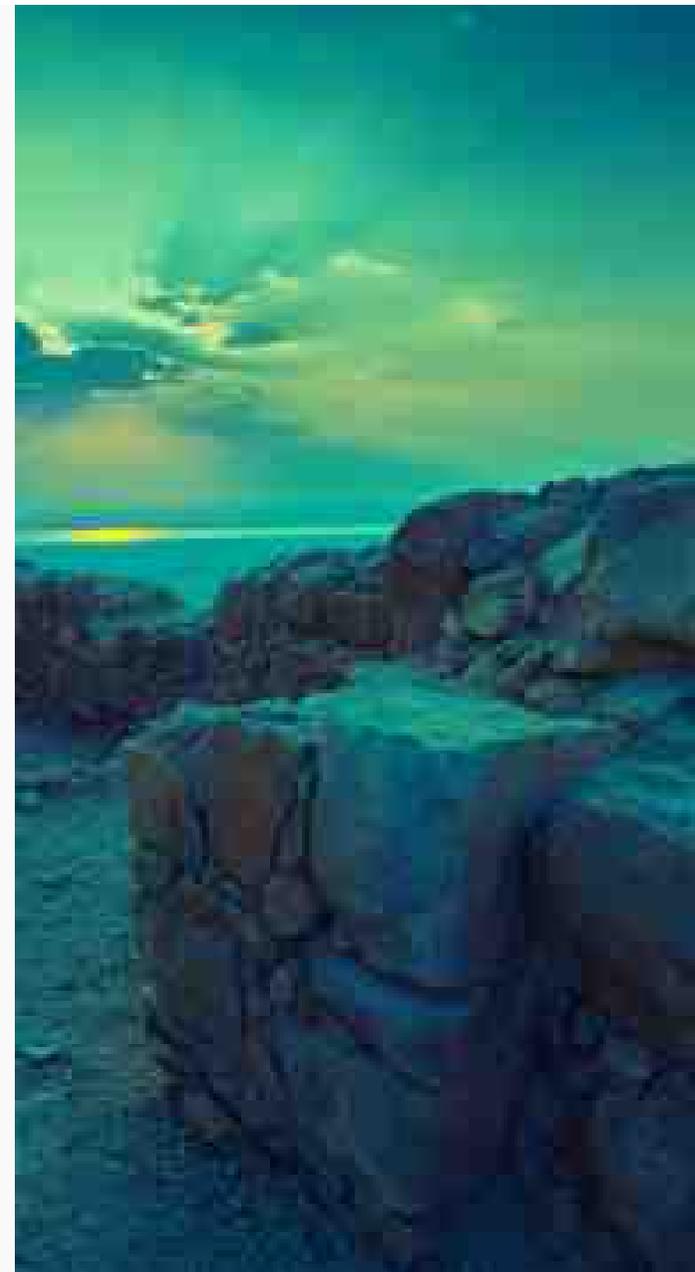
嘆き 主の拒絶 アモス5:21～22

「わたしはあなたがたの祭り*を憎み、退ける。あなたがたのきよめの集会のときの香りも、わたしはかぎたくない。

たとえ、あなたがたが、全焼のささげ物や穀物のささげ物をわたしに献げて、わたしはこれらを受け入れない。肥えた家畜の交わりのいけにえを献げて、わたしは目を留めない。

*律法の定める主の例祭とは似て非なるもの。

→神の定めた方法によらなければ、
何一つ、主に受け取ってはもらえない。



嘆き 歌の騒ぎ アモス5:23～24

あなたがたの歌の騒ぎ*を、わたしから遠ざけよ。あなたがたの琴の音を、わたしは聞きたくない。

公正を水のように、義を、絶えず流れる谷川*のように、流れさせよ。

*どんなに優れた演奏であったとしても…。

→ 主の命令に沿った信仰がなければ、
神にはただの騒ぎでしかない。

*イスラエルの川のほとんどは、水なし川



嘆き 変わらぬ不信仰 アモス5:25～27

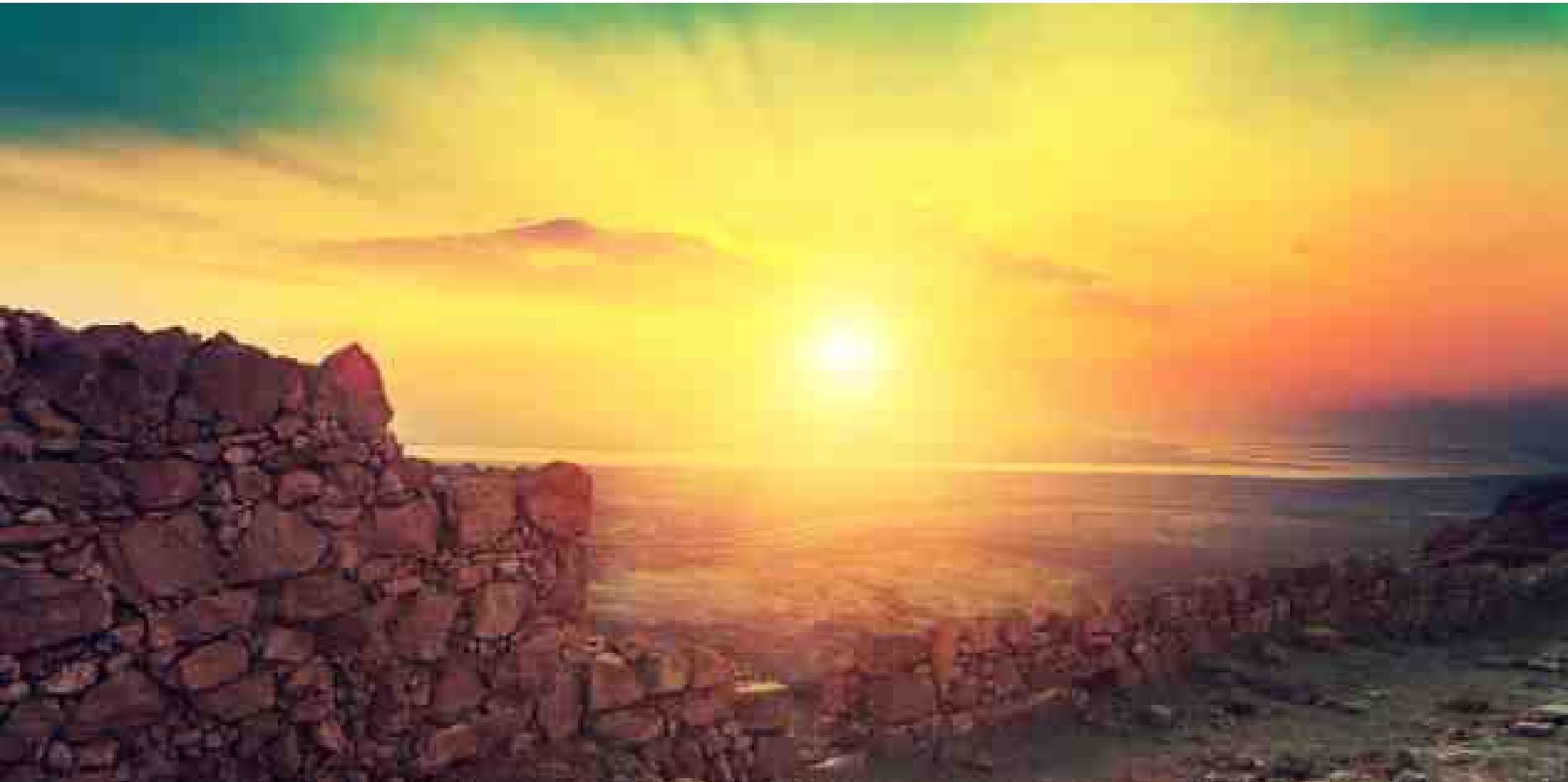
イスラエルの家よ。あなたがたは荒野にいた四十年の間に、いけにえとささげ物を、わたしのところに携えて来たことがあったか。

あなたがたは自分たちの王シクテ*と自分たちの像キユン*、自分たちのために造った神々の星を担いで来た。わたしはあなたがたを、ダマスコのかなたへ捕らえ移す——その名が万軍の神である【主】が言われる。」

*イスラエルを滅ぼすアッシリアの神々。

■荒野の放浪時から変わらない不信仰ゆえに。





IV. 迫る破滅

アモス書6章

嘆き 異邦人頼みの民 アモス6:1~2

わざわざいだ*。シオンで安逸を貪る者、サマリアの山に信頼している者。イスラエルの家が頼って行く、国々の最高の首長たち。

カルネ*に渡って行って見よ。そこから大ハマテ*に行け。またペリシテ人のガテに下って行け。あなたがたはこれらの王国よりすぐれているのか。彼らの領土はあなたがたの領土より大きいのか。

*“ああ” …嘆きの言葉

*ニムロテ起源の町（創10:10） *北の王国

→いずれも、アッシリアに支配される。



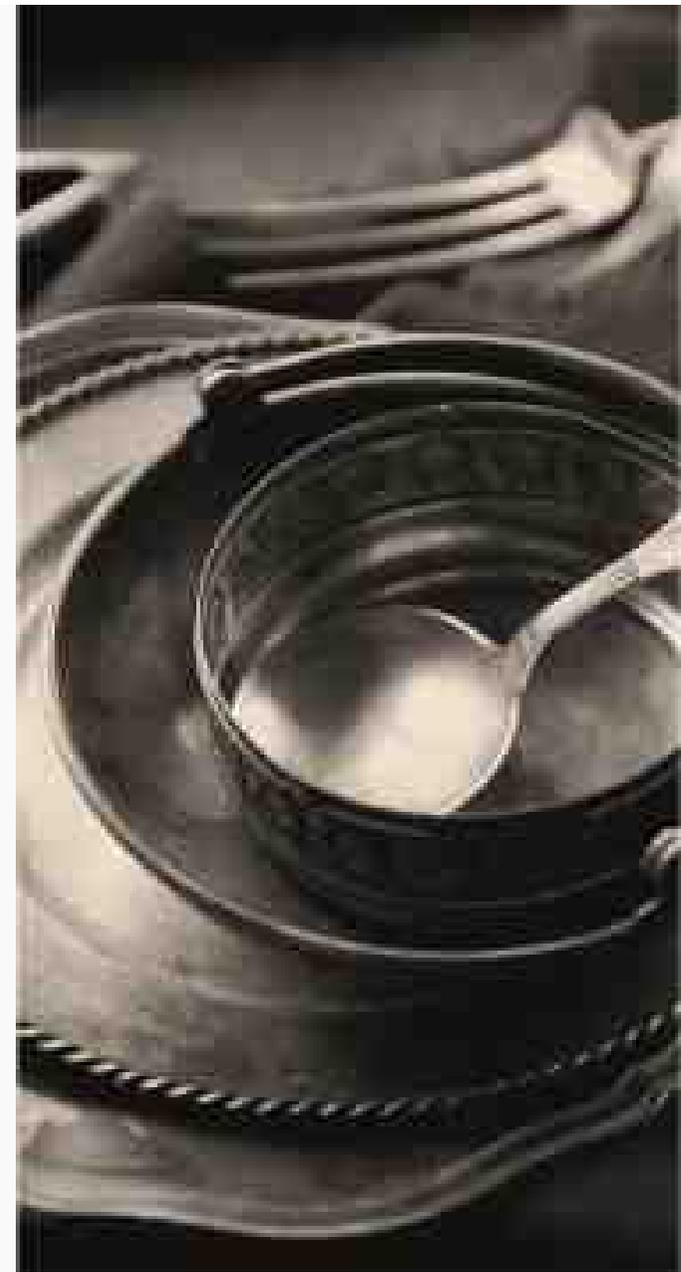
嘆き 近づく暴虐と破滅 アモス6:3~6

あなたがたは、わざわいの日を遠ざけているつもりで、暴虐の時代を近づけている。

象牙の寝台に横たわり長椅子でからだを伸ばし、群れのうちから子羊を、牛舎の中から子牛を取って食べている者、琴の音にのせて即興の歌を作り、ダビデに倣って自分たちの楽器を考え出す者。

彼らは鉢から酒を飲み、最上の香油を身に塗り、ヨセフの破滅のことで嘆き悲しむことがない。

■悔い改めない虚栄の民を待つのは破滅。



嘆き 捕囚の民 アモス6:7~8

それゆえ、今、彼らは最初の捕囚の民として引いて行かれる。大の字になった者どもの、吊いの酒宴は除かれる。【神】である主は、ご自分にかけて誓われる。——万軍の神、【主】のことば——「わたしはヤコブの誇り*を忌み嫌い、その宮殿を憎む。わたしはこの都と、その中のすべての者を引き渡す。」

*北王国が誇りとしていた都サマリヤ

→破壊され、民は虜囚とされる



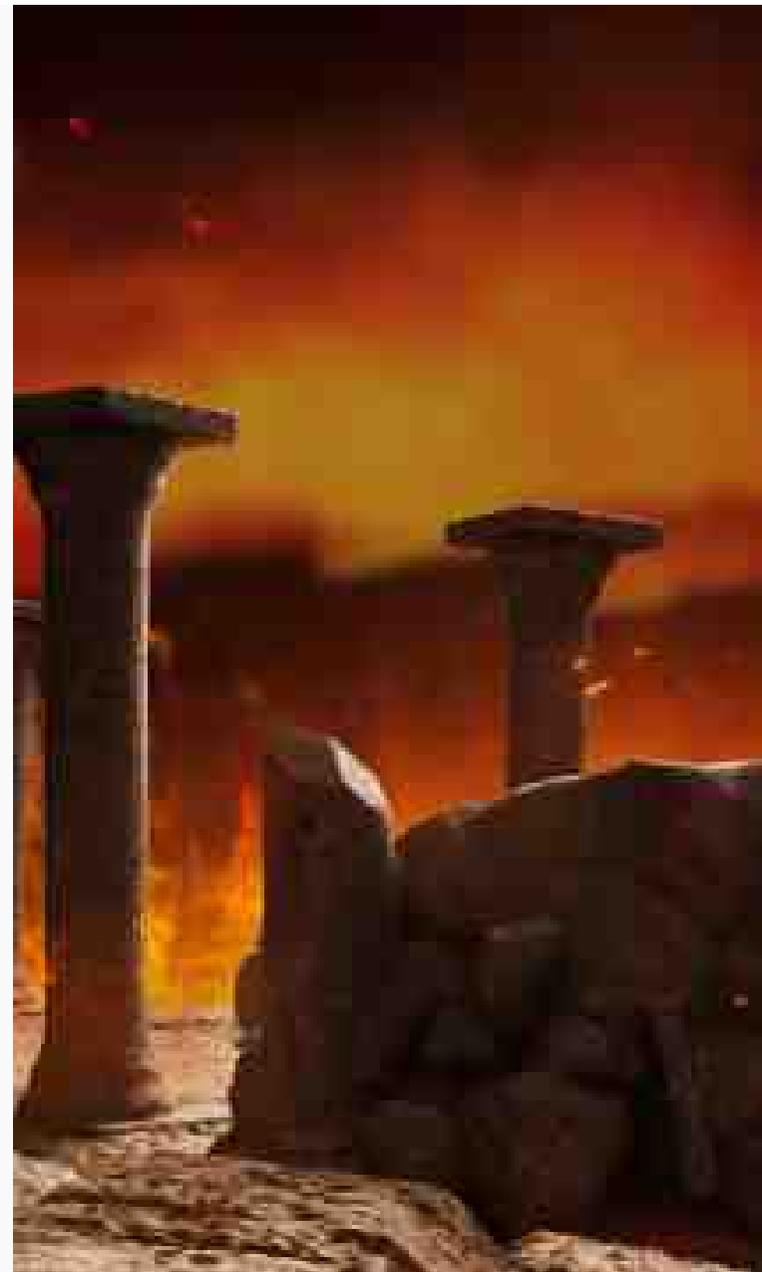
嘆き さらなる悲劇 アモス6:9～10

たとえ、一つの家に残った十人*、彼らもまた死ぬ。親戚の一人でこれを焼く*者が、家から死体を持ち出すためにこれを取り上げ、その家の奥にいる人に向かって言う。「あなたのところには、まだいるか。」彼は言う。「だれもいない。」また言う。「口をつぐめ。【主】の名を口にすな*。」

*100人を出征させて10人が残る(5:3)

*この地方で火葬は異例。

*不信仰者には、主の名は呪いと恐怖の対象。

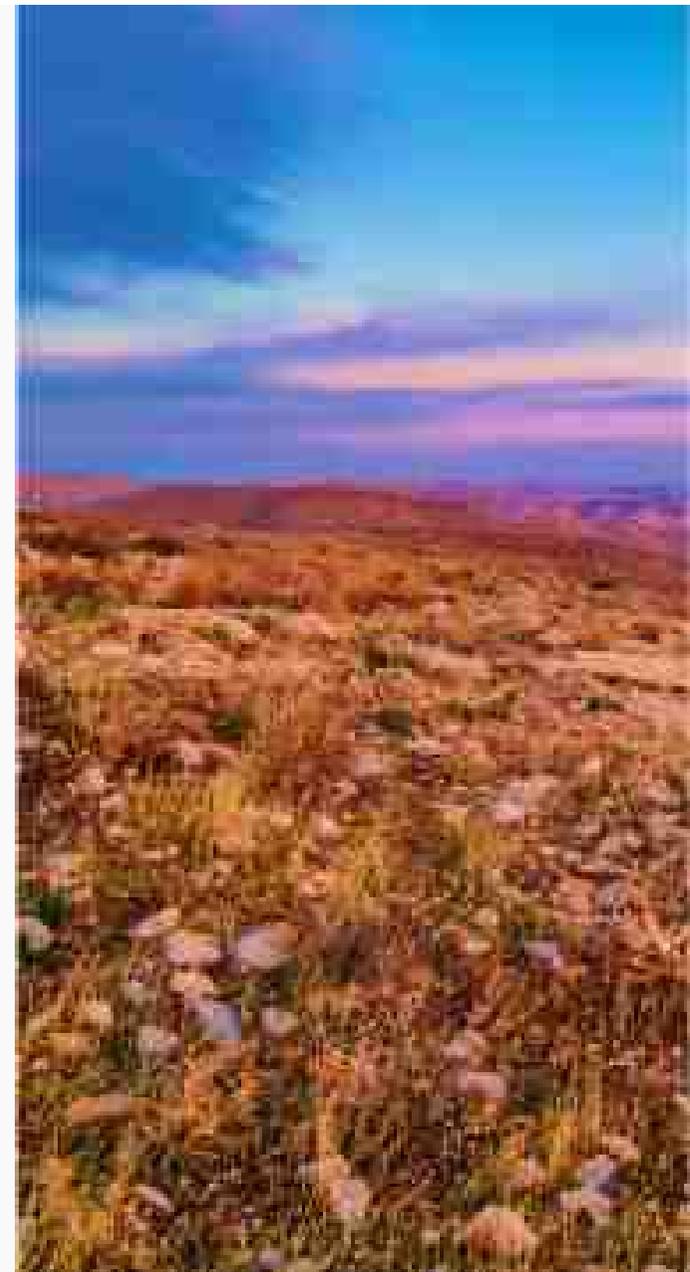


嘆き ありえない背きの末 アモス6:11~12

まことに、見よ、【主】は命じられる。「大きな家を打ち砕き、小さな家を粉々にせよ。」

馬が岩の上を走るだろうか。人がそこを牛で耕すだろうか。しかしあなたがたは、公正を毒に変え、正義の実を苦よもぎに変えた。

- イスラエルの責務は、律法に従い、神の義によって、公正に国を治めること。
 - ➔ 律法を破り、主に背き、自ら毒と苦痛を生み出した。



嘆き 空虚な喜び アモス6:13

あなたがたは、口・ダバル*を喜び、こう言う。「私たちは自分たちの力でカルナウム*を取ったではないか」と。

*“空虚” *死海東岸、モアブの地の旧称

■6章では、古い地名が度々用いられている。

カルネ(洪水後のニムロデの時代)

カルナウム(カナン人の時代)

→浮き上がるのは、古代から変わらず
積み重ねられてきた人の罪。



嘆き アッシリア アモス6:14

「しかし、イスラエルの家よ、今わたしは、
あなたがたに敵対する一つの国*を起こす。
——万軍の神、【主】のことば——彼らは
レボ・ハマテからアラバの水無し川*まで、
あなたがたを虐げる。」

*アッシリア

*最盛期のイスラエル・ユダの南北の境界

➔アッシリアの支配を逃れる地はない。

いよいよ迫るイスラエルの滅びの時





IV. まとめと適用

預言者的な信仰者の使命に遣わされよう

アモスの戦いの現実を想像しよう

- 北王国の一体誰が、アモスを歓迎したのだろうか？
繁栄極めた狂騒の中で、裁きの預言に誰が耳を傾けたのだろうか？
いったい何人の人が、悔い改めて立ち返るにいたっただろうか？
- 軽蔑と侮り、無関心のただ中で、アモスは主の言葉を発し続けた。
イスラエルの残された信仰者が、これを記録し、残したのだろうか。
- 預言者アモスの孤独な使命。しかし、伝えずにはいられなかった。
「【神】である主が語られる。だれが預言しないでいられよう。3:8」

信仰者が主の言葉を告げる動機はただ一つ、主が語られるから

預言書の学びの前提に、適用の基本を押さえておこう

■質問

イスラエル、ユダが滅びに向かって行った、南北の分裂時代と世の終わりに向かっていく、今の時代、どちらがひどい？

■ヒント

南北時代のイスラエル、ユダに対する裁きと、世の終わりの大患難時代の裁き、どちらが厳しい？

■答え

→当然、裁きが厳しいのは**大患難時代**。罪が深刻なのは**今の時代**。

私たちは、はるかに深刻な罪と闇の時代に生きていると認識しよう

今の時代に最も厳しい認識を示されたのは主イエスご自身

- 教会に偽りの教えが入り込み、大きく膨らむ。(パン種のたとえ)
教会は大きく成長するが、悪が棲みつく。(からし種のたとえ)
- 異邦人が救われるのは、海の中で真珠を探すようなこと。
ユダヤ人が救われるのは、畑に隠された宝を探すようなもの。
(マタイ13章他,詳細はメッセージステーション「メシアの生涯」参照)
- 戦争や疫病は当たり前、世界戦争も大地震も前触れに過ぎない。
偽教師、偽預言者、偽キリストは、いつもいて、さらに増えていく。
人々の愛は冷え、愚にもつかない作り話にそれていく。(ルカ21章)

そして、大患難時代は、人間の想像を絶する空前絶後の大災厄の時

種まきのたとえ(マタイ13章)に学ぶ 今の時代の現実

道ばた A (未信者)

幼子の指導者には、
幼子しか導けない

道ばた B (実は未信者)

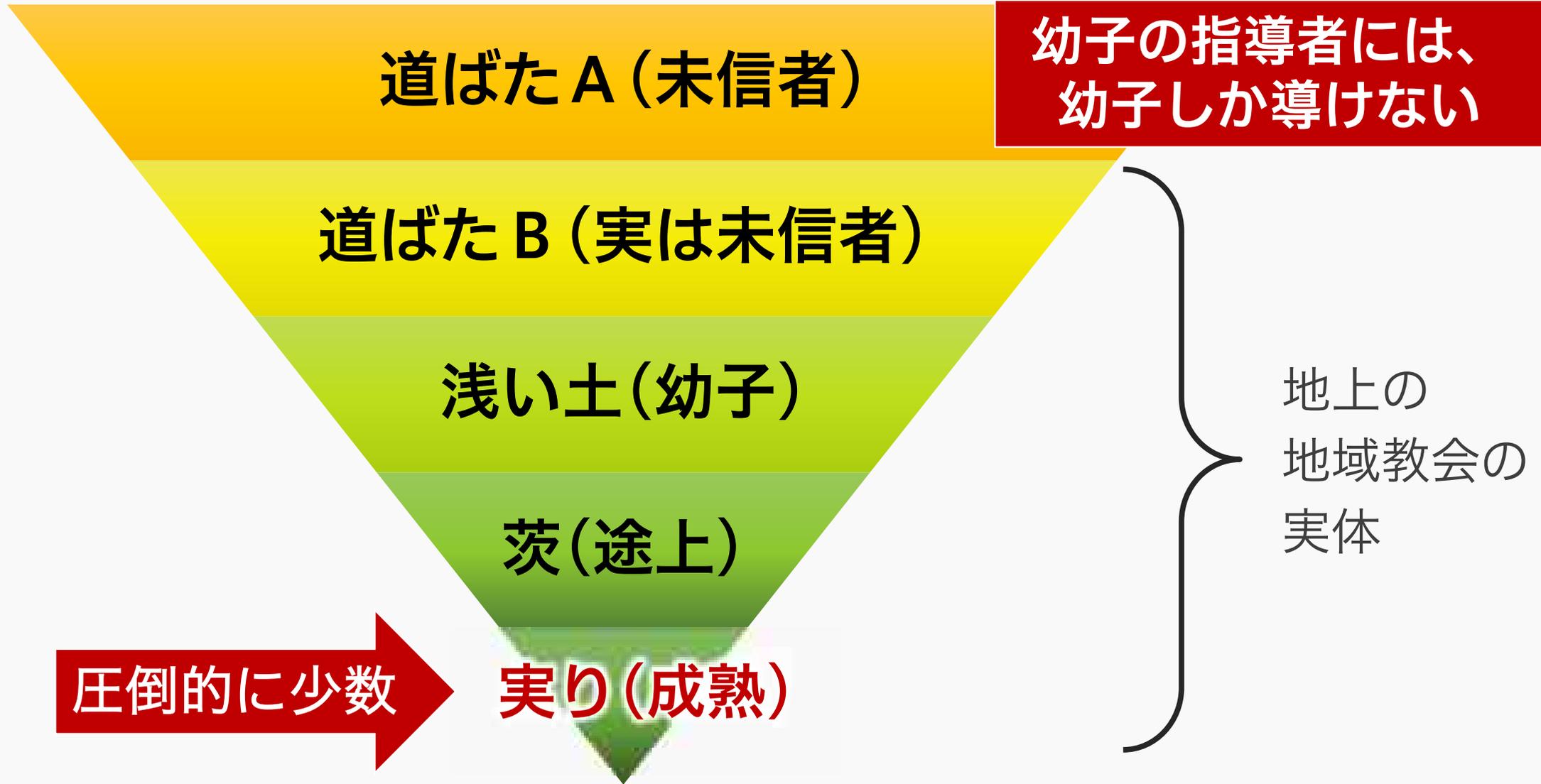
浅い土(幼子)

茨(途上)

圧倒的に少数

実り(成熟)

地上の
地域教会の
実体



わたしの今の立ち位置は？

道ばた A (未信者)

道ばた B (実は未信者)

浅い土 (幼子)

茨 (途上)

実り (成熟)

つまずいても
進み続けて
いるのか？

■ 救いは永遠でも、
確信は簡単に喪失。
信仰の後退も簡単。

■ 信仰の立ち位置は、
現在進行形でしか
確認できない!!

信仰が成長するほど 担う責任も増す

道ばた A (未信者)

道ばた B (実は未信者)

浅い土 (幼子)

茨 (途上)

実り (成熟)

■ 同胞に迫害されない
預言者は皆無。

■ 使徒も苦しんだ。

成長するほど
信仰の戦いも激化する。

自らの成長のために、責任ある関係性を求めよう

■ 支配的な指導者を支えているのは、まぎれもなく依存的な信徒。脱却したいなら、自ら必死に聖書を学び、実践するしかない。

■ 聖書の信仰は、信仰共同体の存在が前提。→イスラエル、教会
自立の上に、責任を担い合う関係性なくして、信仰の成長はない。
預言者とは、最も強く、積極的に、信仰共同体に関わった者。

■ 集う教会がない？ →この時代にまともな教会が少ないのは当然のこと。
主の教会に集うことを第一に求めるなら、行動が必要。
→積極的なりモート参加。足を伸ばす。引っ越す。自ら始める。

■ 主の前に、どうしてお前の信仰は幼いままかとたずねられたとき、
何の言い訳の余地も、私たちにはない。

← 戦うのか？ 逃げるのか？

★ 預言者的な信仰者の使命に遣わされよう ★

■今の時代に預言者はいない。まやかしの偽物がいるだけ。

■一方で、すべての信者は、**預言者的な使命**に遣わされている。
すなわち、“**人々に悔い改めを促し、世の終わりの裁きと救いと、主イエスの再臨、神の国の到来を告げること。**”

■信仰が成長するほど、私たちは、困難な壁に直面させられるだろう。
信仰の苦難に際して、世の経験は何の役にも立たない。ハウツーもない。
できるのは、ひたすら主の言葉に聴き、従い実践することだけだ。

■自分まともか？ この教会はまともか？ そんなことは分からない。
七転八倒しながらも、成長を互いに確認できているか。問われている。

「^{てん}天の^{とう}お父さま。わたしは、あなたに^{そむ}背き、^{つみ}罪を^{かさ}重ねてきました。

わたしは、まぎれもない^{つみびと}罪人です。この^{つみ}罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神の^こみ子イエス・キリストが、
^{つみ} ^{あがな} ^{じゅうじか} ^し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

^{はか} ^{ほうむ}

②墓に葬られ、

^{みつかめ} ^{ふっかつ}

③三日目に復活したこと、を信じます。

^{しゅ} ^{よげんしゃ} ^{つか} ^{しゅ} ^{でし} ^{はけん}
主が預言者を遣わされたように、私は主の弟子として派遣されます。

^く ^{あらた} ^{ふくいん} ^{しん} ^{せんげん} ^{せきむ} ^{あた}
悔い改めて、福音を信じるよう、宣言する責務が与えられています。

^{しゅ} ^は ^{しめい} ^{せいれい} ^{たす}
私の力で果たせる使命ではありません。聖霊によって助けてください。

^{はげ} ^{しお} ^よ ^{とき} ^{いまし} ^{きょうだいしまい} ^{きずな} ^{うち} ^お
励ましあい、時に戒めあえる。兄弟姉妹の絆の内に置いてください。

^{しゅ} ^な ^{いの}
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」